



FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP

Rd,13-Rd,14 OTGmotorsports REPORT

11月10日 | 天候:晴 | 気温:Rd.13/22度 | コース:オートポリス | 路面温度:Rd,13/28度(ドライ)
11月11日 | 天候:晴 | 気温:Rd.14/13度 | コース:オートポリス | 路面温度:Rd,14/12度(ドライ)

4月7日(土)、8日(日)に行なわれた第1戦、第2戦(岡山国際サーキット)で2018年シーズンが開幕したFIA-F4選手権。同選手権は若手ドライバーの育成を目的に2015年から開催されており、OTG MOTORSPORTSは開催初年度からスポンサーを開始。2017年シーズンにGTアソシエーションが立ち上げたサポートプログラム「FIA-F4 JAPANESE CHALLENGE」にも住友ゴム工業と共同でサポートしている。

OTG MOTORSPORTSは、2018年シーズンに3名のドライバーを起用。#80 OTG DL F4CHALLENGEのステアリングを握るのは環優光選手。環選手は全日本カート出身で、今シーズンはFIA-F4 JAPANESE CHALLENGEのドライバーとしてFIA-F4選手権に参戦。FIA-F4に乗るのは今年が初めてだが、レース毎に確実に成長を見せており、前戦の第12戦オートポリスでは8位に入り初ポイントを獲得。今後もさらなる上位入賞が期待できる選手だ。

#81 OTG DL F110のステアリングを握るのは菅波冬悟選手。菅波選手はFIA-F4 JAPANESE CHALLENGEの初代ドライバーで参戦2年目。今シーズンは第3戦富士スピードウェイと第6戦鈴鹿サーキットでのリタイヤを除けば、常にトップ10圏内でチェッカー。また、オートポリスで行なわれた第11戦と第12戦では2戦連続のポルトゥウィン達成。この結果により、第12戦終了時点でのポイントランキングは5位(95ポイント)につけている。

#82 OTG HubAuto F110のステアリングを握るのは庄司雄磨選手。昨年はスポット参戦だった庄司選手だが、今シーズンはHubAutoのサポートを受けてフル参戦。自身のマシンは自らがメンテナンスを行なっている。庄司選手はFIA-F4では苦戦が続いているが、86/BRZレースでは2018年の年間チャンピオンを獲得した実力を持っており、FIA-F4での躍進も期待される。

今シーズンの締めくくりとなる第13戦、第14戦の舞台はツインリンクもてぎ。「2018 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL」のサポートレースとして実施され、11月10日(土)に予選と第13戦、11日(日)に第14戦が開催された。なお、庄司選手は怪我により第13戦、第14戦ともに欠場となった。

#81 菅波冬悟選手

<予選>

FIA-F4選手権は全戦を通して1大会2レースで競われる。しかし予選は1回のみで、30分の予選時間の中で出したベストタイムがレース1(第13戦)の予選順位、セカンドベストタイムがレース2(第14戦)の予選順位となる。第13戦と第14戦の予選はスケジュールに遅れはなく、8時からスタート(30分間)。気温、路面温度ともに16℃で、夜間に降った雨の影響でコースは濡れている状況。ウェット宣言が出され、レインタイヤでのアタックとなる。菅波選手は予選開始と共にコースイン。1周のウォームアップののち2周目から早速アタックを始める。4周目には2分11秒596をマークし、9番手につける。その後もタイムを短縮し、8周目に2分10秒625を出す。菅波選手はその後もコンスタントに10秒台のタイムを記録し、8位から9位の間を走行。ライバルは周回を重ねるごとにタイムアップしていくなかで、菅波選手もアクセルを踏み続けタイムを短縮。予選時間の最後の最後までアタックを続けた菅間に選手は、最終ラップとなった14周目に2分10秒091をマークしベストタイムを更新。セカンドベストタイムは10周目に記録した2分10秒218となり、第13戦が9位、第14戦も9位の予選順位となった。

< Rd.13 決勝 >

決勝は予選から約4時間30分後に行なわれた。天候は曇りだが回復傾向にあり、気温は22℃、路面温度は28℃まで上昇。予選後には、SUPER GTの練習走行が行なわれたこともあって路面は乾いてドライコンディションとなった。32台がグリッドに並び、12週の決勝がスタート。菅波選手は順調にスタートを決め、1コーナーで1台、その先の5コーナーでさらにもう1台を抜き、7位でオープニングラップを終える。菅波選手はさらに前を狙い、2周目までに6位にアップ。しかし3周目でポジションを落として再び7位となる。菅波選手は諦めず前のクルマの約0.3秒後方につけ、中盤は追い抜きのタイミングを狙う。そして8周目に隙をついて1台をパス。9周目にさらにもう1台追い抜き5位に順位を上げる。菅波選手はさらにプッシュ。9周目は4位との差が約4秒あったが、10周目にはその差を2.9秒に縮め、差がぐっと縮まる。そして12周目にはその差がほとんどない状態まで持ち込むが、追い抜くまでには残りのレース距離が足りず5位でチェッカー。4位の選手の1秒後方まで迫る健闘を見せた。なおレース後、上位選手にペナルティの判定が下され、菅波選手は最終的に4位となった。

< Rd.14 決勝 >

予選と第13戦が行なわれた10日(土)から一夜明け、最終戦となる第14戦は11日の8時25分から実施された。前日と打って変わり天候は晴れだが、11月の初旬ともあり気温は13℃、路面温度は12℃と低い状況。決勝は12周だが、フォーメーションラップ開始時に上位陣で走り出せないクルマがあったため仕切り直しとなり、11周で争われることに。

9位からスタートした菅波選手は鋭い出だしでライバルをパス。フォーメーションラップで走り出せないクルマがリタイヤしたこともあり、7位で第2コーナー通過する。菅波選手はさらに先行車を追い、コーナーごとにバトルを仕掛け、第5コーナーで1台、90°コーナーでもう1台と追い抜き、5位でオープニングラップを終える。激しい上位争いが繰り広げられる中、2周目も5位を維持。しかし3周目の90°コーナーからビクトリーコーナーにかけて2台に隙を突かれ7位にポジションダウン。4周目には1コーナーで1台抜き返し6位に浮上する。5周目、3位争いのクルマが5コーナーで接触し、失速した隙を逃さず5位に順位を上昇。さらに90°コーナーでもう1台を仕留めて4位にアップする。3位のクルマは目前。じわじわと差を詰め、8周目には1.2秒差まで詰め寄るも、9周目にコース上で他者がクラッシュしたためセーフティカー導入。そのままセーフティカーは解除されず4位でチェッカーとなった。最終戦の結果により、菅波選手の年間ランキングは5位となった。

<菅波冬悟選手>

もてぎには事前にテストに来ていて、木曜の練習走行では5番手タイムを出せたので良かったです。しかし金曜の練習走行は雨。予選もドライを期待したのですがウエットとなってしまう、思っていたポジションをとることができませんでした。あとコンマ2秒速ければ7番手に入れたかもしれません。第13戦は予選位置が影響してしまいましたね。ドライでは自信があったのでライバルを抜くことができたのですが、ベストと言える結果ではありませんでした。しかし第14戦では、第13戦の反省を活かしてスタートダッシュを決めることができました。チャンスがあれば見逃さず、冷静かつアグレッシブに走りましたね。しかし最後にセーフティカーが入ってしまったことが残念です。表彰台まで本当にあと一步のところでした。今シーズンは優勝も経験し、成長を実感することができました。これを糧に、もっといい結果を残せるよう頑張ります。

#80 環 優光選手

< 予選 >

10日に行なわれた予選。FIA-F4選手権は1大会2レースで競われるが、予選は1回のみ。30分の予選時間の中でのベストタイムでレース1（第13戦）の予選順位、セカンドベストタイムでレース2（第14戦）の予選順位を決める。予選は時間通り8時に開始（気温：16℃、路面温度：16℃）。天候は曇りだが、夜間に降った雨の影響でコースはウエットコンディションとなった。予選前、オフシャルからウエット宣言のアナウンスが流れ、レインタイヤでのアタックとなる。環選手は予選開始と共にコースイン。1周のウォームアップののち早速アタックを開始。順調にタイムを上げ、4周目に2分12秒211のタイムを記録する。環選手はタイヤが温まると共にペースアップし中盤は11秒台にタイムアップ。9周目に2分11秒049を記録する。環選手はさらにタイムアップを図り、12周目からは10秒台に突入。結果、環選手は14周を走行し、14周目に出した2分10秒294がベストタイム、13周目に出した2分10秒810がセカンドベストタイムとなり、第13戦が11位、第14戦が12位からのスタートとなった。

< Rd.13 決勝 >

予選から約4時間30分後に行なわれた決勝。天候は曇りだが、気温は22℃まで上昇。路面温度も28℃で、決勝レース前にSUPER GTの練習走行が実施されたこともあって路面はドライとなった。第13戦の決勝は12周。フォーメーションラップを終え、シグナルがブラックアウトすると、11番グリッドスタートの環選手は順調に走り出す。しかし第1、2コーナー付近では複数のマシンがラインをクロスさせて危険な状況。環選手は接触の危険を感じ、安全な場所へ退避するもポジションダウン。14位でオープニングラップを終える。翌周から環選手は巻き返しを図る。ドライの状態でのマシンの感触もよく、順位の向上が期待できるが、2周目のビクトリーコーナーでアクシデントが発生する。ライバルが環選手のインに飛び込みそのままリアタイヤに接触。アームにダメージを負ってしまう。環選手はなんとか自走でピットに戻るも、レース続行は不可能と判断。そのままマシンから降り、残念ながらリタイヤとなった。

< Rd.14 >

予選と第13戦が行なわれた10日（土）から一夜明け、最終戦となる第14戦は11日の8時25分から実施された。前日と違って変わり天候は晴れだが、11月の初旬ともあり気温は13度、路面温度は12度と低い状況。前日の第13戦で左リアの足まわりを破損した環選手のマシンはメカニックにより修復され、本来の性能で最終戦に挑める。決勝は12周だが、フォーメーションラップ開始時に上位陣で走り出せないクルマがあったため仕切り直しとなり、11周で争われることに。

シグナルがブラックアウトすると、環選手はスタートダッシュを決めホームストレートで2台をパス。フォーメーションラップ開始時に走り出せないクルマがそのままリタイヤとなったため、3つポジションを上げて9位でコントロールラインを通過する。しかし2周目には後続に3コーナーで抜かれてしまい10位にポジションダウン。しかし仕切りにチャンスを伺い、5周目に1台を抜いて9位に順位を挽回する。その後、環選手は8位のクルマの約0.5秒後方に位置どり、虎視眈々とチャンスを待つ。そして8周目に8位のクルマに対して0.2秒まで差を詰め追い抜きを狙うが、9周目にコース上で他車がクラッシュし、セーフティカーが導入される。10周目には上位でさらに1台がリタイヤとなったため8位に順位を上げるが、セーフティカーは最後まで解除されず8位でチェッカー。環選手は今期2度目入賞となった。

<環優光選手>

木曜の練習走行では最高5番手のタイムを出すことができましたが、金曜の練習と土曜はウエットコンディション。あまりセッティングを変えることもできなかったので、自分の走りをアジャストして臨みました。予選結果はままずだったと思います。しかし第13戦は悔しい結果でしたね。スタート後も渋滞に巻き込まれましたし、最終的にはライバルに突っ込まれてリタイヤ。でも運の問題ではなく、自分自身がそのポジションにいたことが原因です。気を引き締め直して臨んだ第14戦ではうまくスタートダッシュを決めることができ、第1コーナーまでに2台を抜くことに成功しました。しかし、その後は思うように順位を上げることはできませんでした。結果は8位でしたが、もうひとつポジションを上げたかったですね。今シーズンは何もわからない状態から始まりましたが、吉本監督を始めチームのサポートのおかげで成長することができました。もっと色々勉強して、今後につなげられればと思います。

#82 庄司雄磨選手

怪我の為、欠場。



<吉本大樹監督>

木曜日の練習走行では菅波選手、環選手ともに順調に走り出せたのですが、木曜からは雨になってしまい、思うようにペースを上げられませんでした。予選はドライを期待したのですが、結局ウエットとなってしまい、菅波、環両選手ともにあまりいいポジションを取れませんでしたね。

環選手は第13戦で残念な結果となりましたが、第14戦はトップ集団についていけたので、トップ集団がどういう走り方をしているのかを学べたと思います。逆に第13戦でこのようなレースができていれば、今日はまた違ったレースができていたかもしれませんね。しかし環選手は今シーズン成長したと思います。シーズン序盤は下位でしたが、最終戦ではトップ集団に混じって走ることができるようになりました。来年もまた走れば、もっと上位に食い込むことが可能だと思います。オフシーズンも頑張ってもらいたいですね。

菅波選手は第13戦も第14戦もライバルを追い上げるいいレースができていたと思います。タイムも悪くなかったので、予選で上位をとれていれば、十分にトップを狙えたと思います。セーフティカーさえ入らなければ、また展開が変わっていたのではないでしょう。菅波選手は2年目ですが、やはりレースを重ねるごとに成長しています。シーズン序盤はいい結果が得られなかったですが、オートポリスで優勝することができました。来シーズンも出場すれば、きっと優勝争いができると思います。

庄司選手は出場できなくて残念でした。今シーズンはなかなか伸び悩みましたね。ただ、自分のマシンのメンテナンスを自ら行なうような選手は他にいません。クルマに対する知識は誰よりも長けているはずなので、そこをうまく引き出せば、もっと結果を出せると思います。

